



米工 MAKERS

米工通信 第1号

令和3年4月26日

鳥取県立米子工業高等学校

まもなく5月、校長室の窓から見える陽射しの輝きが日に日に増しているように感じます。

令和3年4月、米子工業高等学校長に就任しました松川明義です。これまで電子系の授業を担当してきました。どうぞよろしくお願いいたします。

ものづくりは人づくり

みなさんは「ものづくり」にどのようなイメージをお持ちでしょうか？

ものづくりの成果は社会や生活を支えるあらゆるところで活かされていますが、華々しく表に出ることは少なく、気がつけばいつのまにかその技術を利用していることがよくあります。ものづくりに取り組む方々は例えるならコンサートで注目を浴びるアイドルを支えるスタッフのような存在です。派手さはないものの、物事をじっくりと考え、よりよいものを追求していこうとする力強さと、人の幸せや成功を支えることに生きがいを感じる情の厚さを感じます。

また、ものづくりは常にその製品やサービスを活用される方々を意識して行われます。みなさんが困っていることは何か？どんな形にすれば使いやすいのかなど、利用者の視点に立って考え、つくり上げていきます。この利用者の方のことを考えながら取り組む過程から、思いやりの心が育ちます。ある地域では、ものづくりに取り組んだ結果、いじめの件数が減ったという報告もあります。

さらに、ひとつひとつの材料は無機質なものですが、材料を加工し、組み合わせ、エネルギーやプログラムを与え、さらに人が関わることであたかも命を宿しているようなシステムに仕上がります。このことにより、「無」から「有」を生む、あるいは日本古来の「モノには魂が宿る」という精神に深く触れ、謙虚さや命の尊さを実感します。

工業高校で学ぶ生徒たちは、理論を体験で活かし、言葉にならない感動に遭遇する中で大きく成長していきます。

米子工業高校は「地域社会・産業界に貢献する人材の育成」をミッションとし、「自律」「創造」「協働」の校訓を掲げ、自主自律の精神を持ち、他者を思いやる創造力豊かな工業人の育成を目指している学校です。その歴史は大正12年に鳥取県立工業学校として創立され、令和4年に創立100周年を迎える鳥取県内では最も古い工業高校です。卒業生の皆様、地域の皆様、そして地元企業の皆様と今後も地域を中心に世界中の幸せを願い、ものづくり教育による人づくりを支援して参りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

校長 松川明義

